

平成 26 年度

運営に関する計画 (最終反省)

大阪市立新巽中学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

生徒一人一人が自ら考え、判断して行動できる「自立力」と基本的な生活習慣を確立し、規律ある学校生活が過ごせる「自立力」を身につけるように教育実践を推進している。また、ICT機器を効果的に活用するなどして、基礎的・基本的内容の確実な定着を図るとともに、習熟度別指導等の多様な指導方法を積極的に推進している。

(1)全国学力・学習状況調査の結果から

- ・学力調査の平均正答率は「国語」「数学」とも全ての領域で大阪市・全国平均正答率を下回っている。

【国語】

- ・「国語A」・「国語B」ともに全国とは9～13ポイントの差があり、平均無答率では全国の3倍ある。
- ・「国語A」・「国語B」のそれぞれの平均正答率は単純に比較できないが昨年と大きな差はない。平均無答率についても昨年比較で大きな差は見られない。
- ・言語事項について、全国平均と比較すると正答率に低さが顕著である。
- ・「国語の勉強は好きですか」「授業の内容はよく分かりますか」は大阪市・全国と大きな差はないが、他の人に自分の考えを話したり、書いたりすることや考えの過程を伝えることを苦手としている。
- ・視聴覚教材を取り入れ、興味・関心を持たせると同時にわかりやすい授業づくりを進める。
- ・読書習慣の定着が語彙力と文章理解力の向上に結びつくと考えているので、読書活動の時間確保を進めていく。

【数学】

- ・「数学A」・「数学B」とも平均正答率では全国と13～15ポイントの差がある。平均無答率は「数学B」で昨年度と比較して5ポイント下がり25ポイントと全国(10.9%)の2倍以上差がある。
- ・全国平均との差は「数学A」の図形領域と「数学B」の数と式の領域で大きく下回っている。
- ・約7割の生徒が授業の内容が「どちらかといえばよく分かる」と答えているが、学習内容を精選し、基礎・基本の内容にしぼって、反復学習を行っている成果がでている。
- ・「数学の勉強は好きですか」「学習したことを普段の生活の中で活用を考えますか」「公式や決まりを習う時、その根拠を理解しますか」の質問では大阪市と大きな差はない。数学問題の読解力や問題解決力に課題が見られる。

(2)生徒質問紙から基本的な生活習慣において

- ・基本的な生活習慣において、「朝食を毎日食べていますか」について、「食べている」「どちらかといえば食べている」を合わせた生徒数は昨年より増加し、大阪市の平均とほぼ変わらない。
- ・「同じくらいの時刻に起きていますか」は、大阪市をわずかに上回り、全国と変わらない結果になった。
- ・寝るまでの時間、主に携帯電話やスマートフォンによるLINEやメール、ゲームに時間を費やしていることが長く、就寝時間が遅くなるために睡眠不足を感じている生徒が多い。
- ・基本的な生活習慣のリズムが身についていないことが推測される。基本的な生活習慣の確立を図るためにも生活改善を推進するよう家庭の協力を得られるよう努力する。また、携帯電話やスマートフォンの使用についても考えさせる指導を推進する。
- ・「家で、学校の復習をしていますか」「している」と答えた割合は大阪市を0.6ポイントであるが上回ったが、「どちらかといえばしている」を加えた結果は、大阪市を下回った。
- 「全くしていない」は大阪市・全国をはるかに上回った。
- ・「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の問い合わせでは「している」は大阪市が約2倍、全国では

約2.5倍と大きく差がついている。

- ・自分の良さを自覚している生徒は増えてきているが、自分に自信がない、自信を持てない生徒が多い。達成感や成就感を実感できる体験学習などの取り組みを増やしていく。
- ・学校の規則は「守れている」割合が昨年度の半分という結果だった。「どちらかといえば守れている」割合が昨年より大きく増えている。これは校則について守るべきものだという理解が進んできたからだろう。守っていないと考えている生徒の数が固定化する傾向にある。
- ・家庭学習にかかる実態調査を実施し、実態把握に努める。家庭学習について学校としての基本的な考え方の共通理解を図る。
- ・地域の図書館が遠方にあるために、利用する生徒は極めて少ない。また、今年度は1年生が給食の全員喫食が始まったため、給食時間で昼休みが確保できない状態であった。総合的な学習の時間等を活用して読書活動の時間を確保した。しかし、学校の図書室は開館時には多くの生徒が利用している。本に触れる機会は、大阪市平均と同程度のポイントとなっている。
- ・グループ討議や調べ学習などの機会は全国や大阪市より少なく、自分の意見をクラスで発表することに苦手意識を持っている生徒が多い。

(3) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（本校では、シャトルランを選択して実施した。）

【男子】

- ・今年度は長座体前屈が大阪市をわずかに上回っただけで、すべての運動で大阪市・全国を下回る結果だった。
- ・体力合計点(35.14)で大阪市(40.47)約5ポイント、全国(41.74)約7ポイントと大きな差がついた。
- ・「運動やスポーツをすることが好きですか」やや好きも含めると86.3%(昨年88.5%)、昨年を下回り、「きらい(ややきらい)」が2%増えている。
- ・「運動やスポーツすることが得意ですか」74.4%(昨年66.7%)で大阪市71.8%を上回ったが、全国をほんのわずか下回った。「苦手(やや苦手)」26.2%(昨年33.4%)減少し、大阪市より少ないが全国にわずかの差多かった。
- ・きらいと答える生徒が増えたため、各運動が大阪市・全国の平均よりも低い結果となった。
- ・「保健体育の授業は楽しい」と答えた生徒は(90.5%)で、大阪市(83.7%)・全国(89.1%)を上回っている。
- ・「各運動のできたか」を比較すると体つくり運動65.9%(大阪市72.2%・全国79.5%)、器械運動63.6%(大阪市50.2%・全国62.9%)、陸上競技68.2%(大阪市66.1%・全国70.0%)、水泳54.8%(大阪市66.9%・全国64.3%)、球技75.0%(大阪市76.8%・全国82.6%)。「各運動のできなかつた」では、武道74.1%(大阪市25.2%・全国17.9%)、ダンス80.0%(大阪市53.3%・全国31.5%)、体育理論67.8%(大阪市44.3%・全国30.8%)であった。
- ・今後もランニング・体操・補強運動等を引き続き実施することによって、基礎体力の増進に努める。

【女子】

- ・ハンドボール投げ以外のすべての種目で大阪市・全国の平均を下回った。
- ・体力合計点(43.38)では調査が始まって以来初めて大阪市(47.51)より約4ポイント、全国(48.66)より約5ポイント下回った。
- ・自校での昨年度比較で、すべての種目において下回った。体力合計点でも6.6ポイント下回った。
- ・「運動やスポーツをすることが好きですか」やや好きも含めると84.6%(昨年79.0%)、昨年を上回り、「きらい(ややきらい)」も15.4%(昨年21.0%)と下回っている。
- ・「運動やスポーツすることが得意ですか」61.5%(昨年62.87%)で大阪市54.0%、全国57.3%をほんのわずか上回った。「苦手(やや苦手)」38.4%(昨年37.2%)増加し、大阪市(46.0%)より少なく、全国(42.7%)よりも少ない結果だった。
- ・きらいと答える生徒が増えたため、各運動が大阪市・全国の平均よりも低い結果となった。

- ・「保健体育の授業は楽しい」と答えた生徒は(73.6%)で、大阪市(74.27%)・全国(82.7%)を下回っている。
- ・「各運動のできたか」を比較すると体つくり運動 57.5%(大阪市 68.9%・全国 74.9%)、器械運動 22.5%(大阪市 17.9%・全国 20.3%)、陸上競技 61.0%(大阪市 53.9%・全国 58.8%)、水泳 60.5%(大阪市 59.9%・全国 57.5%)、球技 72.5%(大阪市 61.9%・全国 72.0%)、武道 27.8%(大阪市 38.7%・50.4%)、ダンス 48.6%(大阪市 48.1%・全国 68.1%)、体育理論 20.0%(大阪市 34.1%・全国 36.7%)であった。
- ・健康的に過ごすには、運動することが大切であることを保健体育の授業などで教え、運動する習慣を身につけるよう指導する。
- ・「できないことができるようになったきっかけは」、先生にコツやポイントを教えてもらったり、自分で工夫して練習をした。先生や友だちのマネをした。が大阪市・全国を上回る結果から、運動の苦手な生徒へきめ細やかな指導を行うことで減少させていく。

中期目標

【視点 学力の向上】

- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を 80%以上にする。 (マネジメント改革)
- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・平成 25 年度～27 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや問題行動について、解決に向けて対応している割合を毎年 100%にする。 (カリキュラム改革)
- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 (カリキュラム改革)
- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「学校のルールを守るよう心がけている」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 (カリキュラム改革)
- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 (カリキュラム改革)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ・毎年度末の校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を、毎年、前年度より増やす。 (カリキュラム改革)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ・平成 26 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を 65%以上にする。 (マネジメント改革)
- ・平成 26 年度末の生徒アンケートにおける「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を 65%以上にする。 (カリキュラム改革)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・平成 26 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや暴力行為等の問題行動について、解決に向けて対応している割合を 100%にする。 (カリキュラム改革)
- ・平成 26 年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を 65%

以上にする。

(カリキュラム改革)

- 平成 26 年度末の生徒アンケートにおける「学校のルールを守るよう心がけている」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。 (カリキュラム改革)

- 平成 26 年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を 70% 以上にする。 (カリキュラム改革)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 26 年度末の校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を高める。

(カリキュラム改革)

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

- 「授業はわかりやすい」の項目で、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答えた生徒の割合が 44.8%（1 年 45.2%、2 年 45.2%、3 年 43.8%）と目標の 65% を 20.2% も下回った。三学年とも目標を大きく下回ったが、昨年度 44.2% だったので横ばいである。
- 「授業内容・方法を工夫している」と答えた生徒の割合は 65.9%（1 年 77.6%、2 年 54.3%、3 年 62.9%）であり、目標の 80% から 14.1% 下回った。昨年度は 61.4% でわずかではあるが増えている。1 年生が目標を上回る結果であった。
- 他の項目では「真面目に授業に取り組んでいる」74.5%（1 年 69.3%，2 年 68.3%，3 年 86.5%） 「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」52.4%（1 年 58.6%，2 年 39.0%，3 年 57.3%）今後の学力向上の取り組みを考える際に参考にしなければならない結果である。

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 「大きな声でいいさつをしている」61.0%（1 年 63.1%，2 年 47.6%，3 年 58.4%）
「学校の施設を大切にしている」84.0%（1 年 91.4%，2 年 75.6%，3 年 83.2%）
「清掃活動に真面目に取り組んでいる」80.7%（1 年 86.5%，2 年 78.0%，3 年 76.4%）
「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」60.8%（1 年 65.0%，2 年 53.1%，3 年 62.94%）
「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」51.1%（1 年 61.5%，2 年 43.9%，3 年 55.1%）、以上の結果から道徳心や社会性がある一定身についていると考えられる。
- 「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」60.7%（1 年 68.3%，2 年 54.9%，3 年 57.3%）であった。来年度は問題行動・暴力行為の防止に向けての取り組みを重点的に行う必要がある。いじめに対する取り組みは今年度と同様に継続していきたい。
- 登校遅刻をする生徒は限定される傾向にある。進級をきっかけに遅刻をしないことが習慣化されるよう新年度当初からの指導が必要である。
- 「チャイムが鳴ったら着席する」「教科書やノート等の用意をきちんとする」「私語をしない」等の授業規律を順守しようとする意識が年度当初よりも低下してしまいがちである。年間を通じて高い意識が

保てるよう、粘り強く指導していきたい。

【視点 健康・体力の保持増進】

- ・「あなたは毎日朝食を毎日食べますか」（生活と食生活調査結果から）必ず食べるは全体で 71.5%で学年があがるにつれて朝食を食べない傾向がある。（1年 90.0%, 2年 83.3%, 3年 84.6%）
- ・朝食は心とからだの目覚めを促進させ、脳の働きを活発にする大切なエネルギー源。朝食を必ず食べる習慣をつけさせていく。

第1学年

- ・生徒アンケートでの「まじめに授業に取り組んでいる」について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答えた割合は、目標の 65% を上回り 69.3% であった。
- ・「授業はわかりやすい」の項目では、45.2% と目標の 65% を下回った。
- ・「授業内容・方法を工夫している」の項目では、77.6% と大きく上回った。
- ・「授業でわからないところは先生に質問しやすい」の項目では、58.6% とほぼ目標の 60% に近い数値であった。
- 生徒は教師が「授業内容・方法を工夫している」と回答した生徒が 8割近くいるが、「真面目に授業に取り組んでいない」と回答した生徒も約 3割、「授業が分かりにくい」と回答した生徒も 5割強おり、このギャップを埋めていく必要がある。
- ・生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答えた生徒の割合は、66.7% と目標を上回っている。
- ・「学校のルールを守るよう心がけている」の割合は 94.2% と大きく上回っている。
- ・「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答えた割合は、65% と目標の 70% をやや下回った。
- 年度目標には入っていないが、「部活動に熱心に参加している」が 78.8%、 「学校へ行くのが楽しい」が 81.5% と「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答えた割合は高いが、その一方で 20% 前後の生徒が「あまりあてはまらない（全くあてはまらない）」と回答していることを念頭におき、その背景にあるものを様々な角度から見ていく必要がある。
- 「大きな声でいさつをしている」の項目では「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答えた割合は 63.1% であり、決して多いとは言えず、継続的な指導が必要である。
- 「学校の図書館の利用」については、給食（全員喫食）の関係で時間的に図書館の利用ができない状況にある。
- 「友達の気持ちを考え、友達を大切にしている」が 89.4% あり、他人を思いやる心・人を大切にする心を持ち続けるよう、日々の教育活動の中で継続的に指導していきたい。

第2学年

保護者アンケートの回収率が1年生時の90%から72%に低下。保護者の方から「学校からもらつたお知らせ(プリント)を見せません。」という声をいただくことがあります。

今回のアンケートは回収用封筒がついており、生徒にとっても普段のプリントとは若干なりとも「重み」が違っていたでしょう。それでもこの回収率です。日常、保護者の方へのお知らせがきちんと、十分に届いていないであろうことを改めて確認しました。

ご家庭でも、学校からの配布物により一層、気を懸けていただき双方のコミュニケーションはかつてなければと思います。

さて、アンケート全体を俯瞰しますと1年生時とほぼ同じ傾向を示しており、入学後2年近くを経ましたが、課題が解決できていないまま時が経過しているのがと考えざるを得ません。しかし、その中身についてもう少し詳細に分析すれば違った側面が見えてくるようにも思います。

例えば、項目1「学校へ行くのが楽しい」に「当てはまらない」と回答した割合が1年生時29.5%だったものが36%へと増加しています。この増加の背景にあるものが何なのか。

学習のつまずき、友人を含む人間関係、部活動等々、その要因となるものに目を向けてみると具体的にてだてが必要なものもあれば、思春期という大人への過渡期特有の心の揺らぎもあるでしょう。

したがって、本アンケートの結果をひとつの資料としつつ個別かつ具体的な生徒ひとりひとりと向きあい、そこから得られたものを保護者の方々と共有できればと考えます。

殊に、来年度は進路選択を控え、さらに一層保護者の方々のご協力を得たいと願っています。

第3学年

生徒のアンケートについて、3学年のなかで、「学校へ行くのが楽しい」「大きな声でいきつをしている」「集会での話をよく聞いている」「まじめに授業に取り組んでいる」「授業でわからないところについて先生に質問している」などほとんどの項目で一番高い評価である。2年の時は3学年でほとんどの項目で一番低かったのが大きく変化した。中だるみの時期を越え、学校になじんだ結果であろう。しかし、去年の3年生に比べて、ほとんどの項目で「よく当てはまる」減り、「だいたい当てはまる」が多くなっている。去年の3年生が少人数学級であった条件もあるが、去年ほどの信頼関係が築けなかつたためかもしれない。また、一部逸脱生徒がでてしまったことも大きいと思う。保護者のアンケートでも同様の傾向がみられる。「子どもは悩みなどの相談を先生とよくしている」では他学年に比べて顕著に高い値を示している。一方、「学校は清掃が行き届いている」「学校の校舎や設備がよく整えられている」では最下位と、美化意識や物を大切にする心が十分に育てられず、保護者にもそのように評価されてしまったようと思える。

大阪市立新巽中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度末の生徒アンケートで「まじめに授業に取り組んでいる」について、「良く当てはまる(ややあてはまる)」と答えた割合を65%以上にする。 (カリキュラム改革) 平成26年度末の生徒アンケートで「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を65%以上にする。 (マネジメント改革) 平成26年度末の生徒アンケートで「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を65%以上にする。 (カリキュラム改革) 平成26年度末の生徒アンケートで「授業でわからないところは先生に質問しやすい」と答える生徒の割合を60%以上にする。 (カリキュラム改革) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【学力の向上 “授業内容（わかる授業）の充実”】 国語、数学、英語、理科において、年間を通じて計画的に理解度に応じた授業を実施する。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・生徒アンケートで「授業でわからないことなど気軽に先生に質問することができる」と答える生徒の割合を60%以上にする。	B
取組内容②【学力の向上 “各教科の指導力の向上”】 研究授業を年間で一人1回以上行い、教員一人一人の授業力の向上を図る。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・研究協議をともなう研究授業を年間9回以上、また、研究授業を1年間に20回以上実施する。	B
取組内容③【学力の向上 “自主学習習慣の確立”】 各教科での宿題、課題、作品等の提出物の指導を徹底する。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・各教科での提出率を100%をめざす。	B
取組内容④【学力の向上 “読書活動の充実を図る”】 各学年で「読書活動」を計画的に実施する。 (カリキュラム改革)	C
指標 ・校内アンケートで「学校の図書館をよく利用している」と答える生徒の割合を40%以上にする。	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 生徒アンケートで「授業でわからないことなど気軽に先生に質問することができる」と答える生徒が52.4%であった。さらに学年による差も大きい。
② 研究協議をともなう研究授業を予定どおり9回実施することができた。研究授業の実施時期が定期テ

スト1週間前に実施したため、準備等に困難さがあった。

- ③ おおむね提出物は提出する生徒が多いが、学年や教科により差はある。
- ④ 生徒アンケートで13.5%と非常に低い結果となった。特に1年生は給食の配膳や返却に多くの時間が割かれ、昼休みの利用が難しい。1年生では総合の時間を活用して、読書時間を設定して実施した。

次年度への改善点

- ① 学年の特徴や生徒一人一人に応じた指導を心がける。チームティーチングや分割授業の班分けにも工夫が必要である。
- ② 研究授業の実施時期の再検討が必要である。また、研究協議の方法もさらに工夫が必要である。
- ③ 各教科で宿題や課題、作成の内容をさらに精選する必要がある。引き続き生徒への声かけや保護者への連絡など家庭との連携もしていく。
- ④ 生徒たちが興味をもちそうな書籍の精選をおこなう。給食の方法に改善が必要である。

大阪市立新巽中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
・平成26年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや問題行動について、解決に向けて対応している割合を100%にする。	(カリキュラム改革)
・平成26年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を65%以上にする。	(カリキュラム改革)
・平成26年度末の生徒アンケートにおける「学校のルールを守るよう心がけている」と答える生徒の割合を80%以上にする。	(カリキュラム改革)
・平成26年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を70%以上にする。	(カリキュラム改革)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【その他“いじめ・問題行動への対応”】 相談活動を充実させ、生徒の変化等の早期発見・早期対応に努め、未然防止に努める。また、暴力行為のない学校づくりをめざす。	C
指標 ・年間に2回以上カウンセリング活動を実施したり、毎週金曜日に「一週間の振り返り」を実施し、実態把握を行い未然防止、早期発見・指導に努める。 ・生活実態調査を実施し、生徒理解に努める。	C
取組内容②【その他“基本的生活習慣の確立”】 朝のスタートを大切にし、時間を守る意識を高める。	(カリキュラム改革)
指標 ・校内アンケートで「遅刻をしない」と答える生徒の割合を70%以上にする。 ・生徒会活動を活発にし、「朝のあいさつ運動」などの自主活動を行う。	B
取組内容③【その他“規範意識の育成”】 「遅刻、服装、忘れ物」等の指導を通して、自律した生徒の育成を図る。(カリキュラム改革)	C
指標 ・校内アンケートで「学校のルールを守っている」と答える生徒の割合を昨年度より増やす。 ・授業規範について、講師を招聘して研修会を年1回実施する。	C
取組内容④【道徳心・社会性の育成 “道徳教育の充実”】 心の葛藤を通して、よりよい生き方を求める態度を養う。	(カリキュラム改革)
指標 ・「道徳」の時間を100%確保することをめざし、「道徳」の研究授業と研修会をそれぞれ年間1回以上は実施する。	B

取組内容⑤【その他 “豊かな心の育成”】

芸術を身近に感じ親しむことで、豊かな感性を育む。

(カリキュラム改革)

指標

- 年に1回は、本物の舞台芸術を体験させる。
- 読み物教材の指導時数を昨年度よりも増加させる。

B

取組内容⑥【その他 “大阪らしさを活かした取組”】

大阪市内の施設や史跡を実際に訪れることで、「郷土おおさか」を愛する心を育てる。

(カリキュラム改革)

指標

- フィールドワークや調べ学習を行い、能動的な学習態度を養う。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合が60.8%にとどまり、年度目標を達成できなかった。

- 一週間の振り返りやカウンセリング、生活実態調査等の取り組みにより「いじめ」は未然に防止できたと考えられるが、「暴力行為のない学校づくり」は達成できなかった。
- 生徒会本部役員や生活委員会等生徒による活動、教職員による校門での声かけ等を通して、朝のスタートの大切さを伝えることができた。
- 「学校のルールを守っている」と答える生徒の割合が昨年度より1ポイント減少した。また、外部講師による授業規範についての研修会は実施できなかった。
- 道徳・特活・性教育委員会での取り組みもあり、「道徳」の時間を100%確保することをめざすことはできた。また、「道徳」の研究授業は2年次研修も含めて5回、研修会は1回実施できた。
- 土曜授業を活用し、古典芸能（狂言、落語）の芸術鑑賞を実施することができた。
性教育や道徳授業で読み物教材を活用した授業を実施した。
- 2年生が大阪市内をめぐるフィールドワークを実施し、大阪市内の施設で自然科学や歴史について関心を持つて学ぶことができた。

次年度への改善点

- 来年度は問題行動・暴力行為の防止に向けての取り組みを重点的に行う必要がある。いじめに対する取り組みは今年度と同様に継続していきたい。
- 登校遅刻をする生徒は限定される傾向にある。進級をきっかけに遅刻をしないことが習慣化されるよう新年度当初からの指導が必要である。
- 「チャイムが鳴ったら着席する」「教科書やノート等の用意をきちんとする」「私語をしない」等の授業規律を順守しようとする意識が年度当初よりも低下してしまいがちである。年間を通じて高い意識が保てるよう、粘り強く指導していきたい。

- ④ 「道徳」の教科化に向け、来年度から移行期間に入る。道徳教育推進教師を中心に年間指導計画を作成し、「道徳」の時間を100%確保できるようにしていきたい。
- ⑤ 生徒たちの興味・関心を持つ音楽や演劇の鑑賞を実施したい。
- ⑥ 調らべ学習への取り組みを充実させた実践が必要である。

大阪市立新巽中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
・平成26年度末の校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を前年度より高める。 (カリキュラム改革)	B
・平成26年度末の校内アンケートにおいて「保健だよりを読んでいる」生徒の割合を前年度より高める。 (カリキュラム改革)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【健康・体力の保持増進“食育の充実”】 食育だよりの定期発行や、講師を招いての講話をを行い、食の大切さに対する意識を高める。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・校内アンケートで「健康のために食事を好き嫌いせず、残さず食べるように気をつけている」と答える生徒の割合を昨年度より増やす。	B
取組内容②【健康・体力の保持増進“体力向上への支援”】 体育の授業時に「体力づくりトレーニング」を継続的に行う。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、昨年度を上回る項目を増やす。	B
取組内容③【道徳心・社会性の育成“男女共生教育の推進”】 視聴覚教材を効果的に用いて「性教育」の実践を行い、命の大切さに対する意識を高める。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・校内アンケートで「命の大切さについて学ぶ機会がある」と答える生徒の割合を高める。	B
取組内容④【健康・体力の保持増進“健康な生活習慣の確立”】 保健だよりを定期的に発行し、自己管理能力を向上させる。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・校内アンケートで「健康に気をつけている」と答える生徒の割合を昨年度より増やす。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 本年度は外部講師を招き1, 2年生対象に食育を行った。 ② おおむね達成できている。 ③ 学年の状態に合わせ、副読本を使用したり、外部の団体を招へいしたりして、性に関する指導に取り組んでいる。 ④ 保健だよりは定期的に発行できたが、生徒に十分読ませる機会を作ることが難しかった。

『「保健だより」をよく読んで、健康に気をつけている』質問にたいして 32.0%（1年 32.7%，2年 26.8%，3年 36.0%）という結果だった。

次年度への改善点

- ① 3学年対象に食育を行う。また、食育に対する教職員の意識を深める取り組みを企画する。
- ② ランニング・体操・補強運動を継続して実施していく。
- ③ 引き続き学年での取り組みを実施し、命の大切さに対する生徒の意識を高めていく。
- ④ 保健だよりを学活等を利用し、生徒に読ませ内容を理解させる機会を設け、生徒の健康意識を高める。